

## 今できることだけに 集中する



少し間が空きましたが、いかがお過ごしだったでしょうか。この半年で世界が一変してしまいました。前に進もうにも不安と制限の中で長い閉塞感が続いています。特に四月頃は「先が見えない」というムードに、私も飲み込まれそうでした。

しかし、ふと思いつきました。そういえば私には今まで「先が見通せる」ことなどなかったのです。

出産や夫の転勤によって一つの仕事を続けることができず、様々なアルバイトをしてきたというのが前回書かせていただいた話。ただ、どんなバイトでも、社員編集者として必死に働いていた時の経験は役に立ちました。その反対に、まれに請け負うフリー編集者としての仕事には、バイトとして飛び込んだ世界の知識も、主婦業も母業も、あらゆる実体験が活かされました。

ブラジルに住んでいた時は、ライターとして現地の様子を日本の出版を手伝うようになりました。ポランティアでの仕事で、それまでの私だったら引き受けなかったと思うのですが、なぜかその時はやってみようか、と思ったのです。各地を転々としてから地元に戻り、外の世界ばかりを見てきた私が、ホームタウンをはじめめて意識したタイミングだったのだと思います。

意識が向くと情報が入ってくるものです。駅前の町興しの一環として、ハンドクラフトをテーマにしたチャレンジショップを募集することを知りました。子育て中のため時間的に無理だと、当初は真剣に考えもしませんでした。が、ワークショップの講師仲間が「一緒にやろう」と言い出して、古着屋のバイト友達もディスプレイや仕入れに協力してくれるといえます。あれよあれよと算段がつき、えいや、と半ば勢いで応募してしまいました。

町興しプロジェクトであるため選抜

社に送る仕事をしていました。またまった材料が揃っていることにある時気付いて、帰国してから『ブラジルの手しごと』という本を出版。本の中でブラジルの毛糸刺繍タペサリアを紹介したことで、カルチャースクールで講座を持つことに発展していききました。

仕事でも趣味でも、たとえ一つのことを続けられなくても、流れの中でやりたいことをやってみれば、後からそれが生きてくる。そう実感することが何度もありました。人生そんなものだと分かっていたら、出産で会社を辞めた時にあんなに落ち込む必要などなかったのですよね。だからコロナ自粛期間中にしていただけなくて、今後につながるかもしれない、そう思っています。

### 流れと少しの勇気で店を借りる

ここ数年は夫の転勤も落ち着き、私の地元での生活が続いています。二年ほど前から駅前のコミュニティカフェ審査があったのですが、企画書を書くことは編集者の経験から鍛えられています。さらに、地元で強い人脈があるコミュニティカフェが私を推薦してくれました。カフェでのボランティアはここに繋がってきたのか、と自分でもびっくりです。人生で無駄なことなんて、本当になにもありません。

こうして審査に通過したのですが、店を借りてみる勇気は、ポクボク発行人・秋本さんからもいただきました。同年代の子持ちの主婦が、新たなチャレンジをする姿を見て、勝手にうれしく、奮起したのです。



文・写真  
小宮華寿子  
二男一女の母で  
編集者。『ブラ  
ジルの手しごと』  
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と  
ワークショップの店「メルカジーニョ」  
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・  
デザイン  
寺沼麻美  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆ  
らゆらゆるる北欧風手作りモビ  
ール」(ネコパブリッシング)を監修。